

新潟縣

(昭和33年3月18日第三種郵便物認可)

昭和39年7月1日(毎月1回1日発行)

発行所 新潟県公民館連絡協議会

〔新潟市一番町通町・県教育庁社会教育課内〕

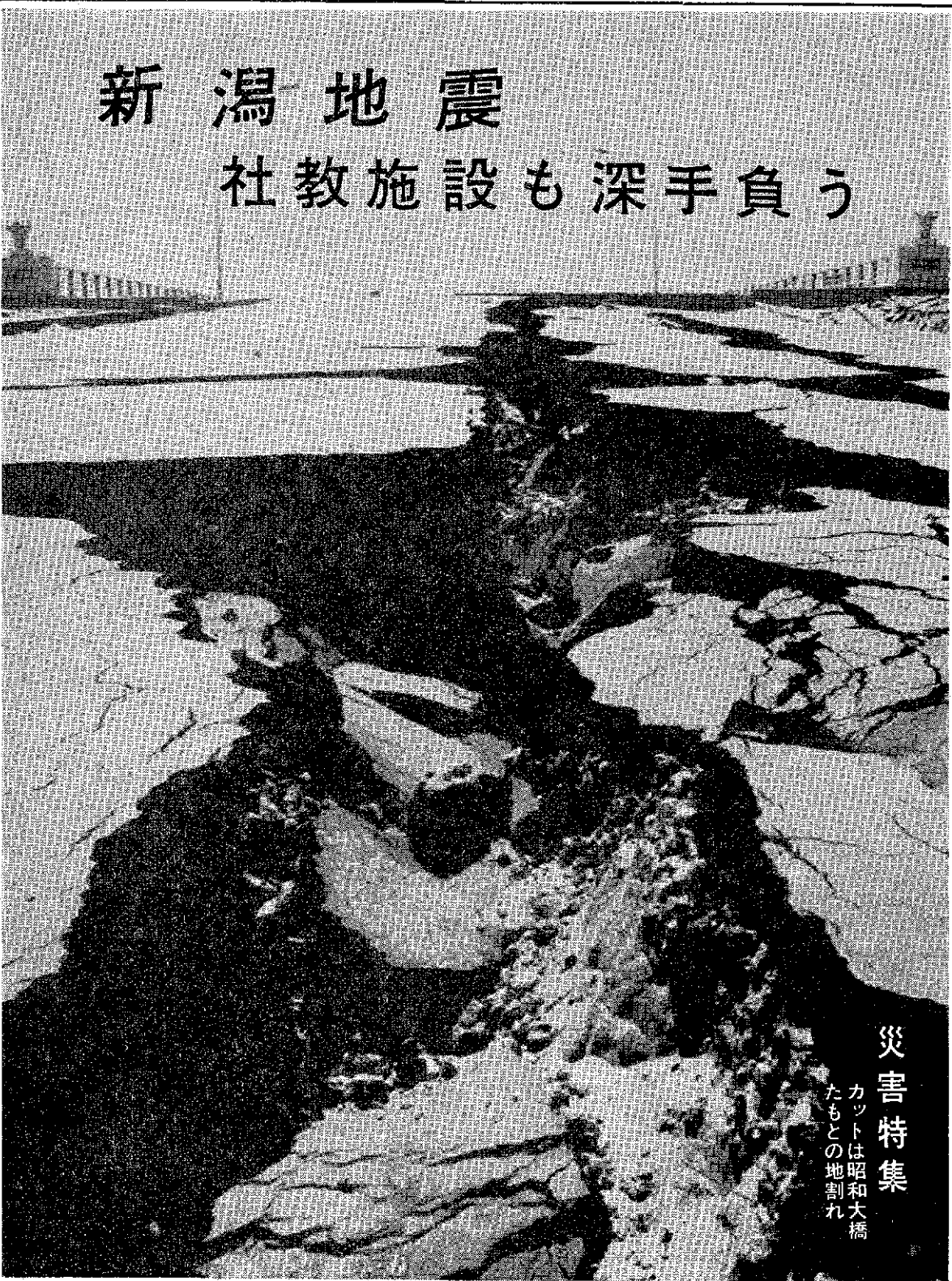
〔電話(新潟)35511の624〕

〔振替(新潟)4094〕

発行人 飛田一郎

(定価 1部15円)

7月号(137号)



新潟地震

社教施設も深手負う

災害特集

カットは昭和
たもとの地割れ

再建へ照らそうC・P・Hの灯

教育施設災害状況

7月5日現在

新潟県

物		土地				設備		工作		被害額計 (円)	備考	
中破以下 被害数	被害額	被害額 小計	被害風 (立坪)	坪当 り 単位	被害額	被害品目	浸水程度 及び坪数	被害額	被害工作 物の種類			被害額
73.0	263,550	263,550				ケイコウトウ 外		10,000	ヨウ壁	1,000	274,550	
		600,000				書 棚		75,000			675,000	
186.0	424,000	4,064,250				放送設備, 給 水, 電気		68,000	物置小屋, 別荘その他	375,000	4,507,250	
10.0	20,000	20,000									20,000	
216.0	648,000	648,000									648,000	
585.0	1,355,550	5,595,800						153,000		376,000	6,124,800	
		30,000,000									30,000,000	
		2,718,750	08.75	1,000	108,750				砂場5坪	5,000	2,832,500	
		1,500,000	52.5	500	26,250						1,526,250	
		1,200,000	60.0	500	30,000						1,230,000	
		930,000	46.0	500	23,000						953,000	
		50,000									50,000	
		260,000									260,000	
31.0	61,000	61,000									61,000	
47.0	99,000	99,000									99,000	
18.0	76,000	76,000									76,000	
71.0	64,000	64,000									64,000	
2.0	3,000	3,000									3,000	一部 壁割
4.5	12,000	12,000									12,000	
173.5	315,000	36,973,750	267.25		188,000					5,000	37,166,750	
		30,000,000									30,000,000	修理 不能
80.0	1,500,000	1,500,000				図 書	床上10cm 40.0	300,000			1,800,000	
30.0	800,000	800,000				"	床上80cm 45.0	2,700,000			3,500,000	
800.3	100,000,000	100,000,000									100,000,000	
48.0	96,000	96,000							屋 根 21.0	33,600	129,600	
958.3	102,396,000	132,396,000						3,000,000	21.0	33,600	135,429,600	
		10,210,000							併(門柱) 国旗掲揚	150,000 10,000	10,370,000	
		10,210,000								160,000	10,370,000	
						陳列品		2,000,000			2,000,000	
		1,000,000									1,000,000	
		1,000,000						2,000,000			3,000,000	
1,716.8	104,060,550	186,175,550	267.25		188,000			5,153,000		574,600	192,091,150	
		200,000									200,000	
		150,000,000									150,000,000	
		150,200,000									150,200,000	
1,716.8	104,066,550	336,375,550	267.25		188,000			5,153,000		574,600	342,291,150	

新潟地震公立社会

施 設 名		建											
郡市村	名 称	設年 置月日	本館 分館 の別	独立 併立 の別	建物 延坪数	構 造 区 分	敷 地 坪 数	全 被 害 坪 数	壊 被 害 額	半 壊 被 害 坪 数	被 害 額	大 被 害 坪 数	破 被 害 額
山形市	中央公民館	30.3.31	本	独	137.0	木造二階	208.0						
豊町	中央公民館	26.3.31	本	独	200.0	〃	600.0					200.0	600,000
水町	中央公民館	37.4.1	本	独	1,129.0	木造二階	2,326.0			87.7	1,316,250	145.0	2,324,000
新津市	中央公民館	25.4.1	本	独	87.14	〃 平	574.06						
村上	中央公民館	38.5.1	本	独	216.0	木造 〃	583.0						
	計				1,769.14		4,291.06			87.7	1,316,250	345.0	2,924,000
新潟市	坂井輪分館	昭22.7.1	分	独	93.0	木造二階	142.0					93	30,000,000
黒川村	立仏分館	25.4.1	分	独	54.3	木 造	108.75	54.37	2,718,750				
〃	小平分館	26.3.10	分	独	37.5	〃	52.5	37.5	1,500,000				
〃	柳作分館	30.5.1	分	独	34.0	〃	60.0			34.0	1,200,000		
〃	ゼン久分館	25.8.1	分	独	31.0	〃	46.0			31.0	930,000		
〃	鳥原本村 〃	30.5.1	分	独	26.0	〃	91.0					10.0	50,000
与板町	旗原 〃	30.5.4	分	独	89.0	〃	162.0					65.0	260,000
村上	岩船分館	29.3.6	分	併	115.0	〃二階	201.0						
〃	山辺里 〃	33.2.9	分	併	136.0	〃二階	237.0						
〃	瀬波 〃	29.8.1	分	併	110.0	〃二階	144.0						
〃	上海府 〃	29.1.5	分	併	58.0	〃二階	141.0						
大町	久保ヶ池分館	29.3.1	分	独	60.0	〃平家	121.0						
新津市	新関分館	32.3.18	分	独	87.64	木造 〃	239.0						
	計				931.44		1,745.25	91.87	4,218,750	65.5	2,130,000	75.5	303,100,000
新潟市	沼垂図書館	S22.7.1	本	独	93.0	木造二階	142.0					93.0	30,000,000
〃	丹江図書館	〃26.4.1	本	独	80.0	〃	165.0						
〃	山の下 図書館閲覧所	〃27.4.7	分	独	30.0	〃平家	64.0						
県立	新潟図書館	T4.4.1	本	独	693.75	鉄キーン一部 モルタル	800.3						
新津市	新津市図書館	T14.4.1	本	独	101.0	〃	269.0						
	計				997.75		1,440.3					93.0	30,000,000
県	青年の家	S34.	本	独	225.6	木造二階 (一部鉄)	315.0					225.6	10,210,000
	計				225.6		315.0					225.6	10,210,000
横越村	財団法人 北方博物館	S27.4.	本	独	800.5	木造二階	3,750.0						
新潟市	財団法人 南浜博物館	S27.4.	分	独	112.0	〃	495.0					80.0	1,000,000
	計				912.5		4,245.0					80.0	1,000,000
	合 計				4,836.43		12,036.61	91.87	4,218,750	153.2	3,446,250	819.1	74,444,000
小谷千市	市民の家	S31.5.	本	独	150.0	木造二階	215.6					50.0	200,000
新潟市	公会堂	S13.11.23	本	独	1,428.0	鉄筋三階	1,653.0					1,428.0	150,000,000
	計				1,578.0		1,868.6					1,478.0	150,200,000
	総 計				6,414.43		13,905.21	91.87	4,218,750	153.0	3,446,250	2,297.1	224,644,000

天災に遭遇して

公民館を思う

村上市中央公民館長 小杉 説次郎

このたびの大震災にあって自然の猛威を今更のようになせつづけるが、自分の姿を冷静に反省するに危険でしたが、全員無事だ」とわが子の無事を確認したような気が、全く驚きに堪えな。あの瞬間の大揺れから大小余震の中に私が見えなかったかを振り返ってみる。

私は山辺里で十時過ぎまで公用を足していたが、オートバイの故障のため自宅へ修理の終るのを待っていた時のこと。あの揺れの間に、全くはかばかしながら放心状態では、最初表に飛び出し、危険を見て、胸がしめつけられ、眼頭が残っている。中を一周りした。学校の建物

が勢となる。校長先生が「ホントが、ますます大したことはない。が、全員の安全を確保するに危険でしたが、全員無事だ」とわが子の無事を確認したような気が、全く驚きに堪えな。あの瞬間の大揺れから大小余震の中に私が見えなかったかを振り返ってみる。

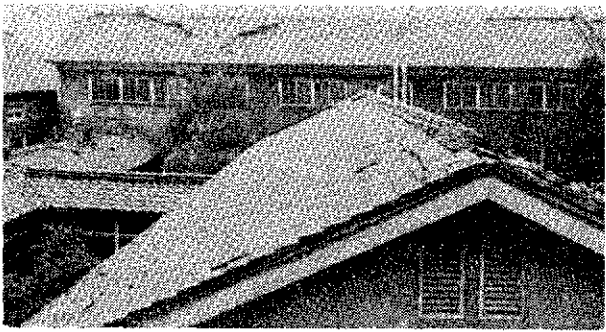
まず山辺里小学校と同公民館にしている、壁落ちが甚だしいと報告して、無事な姿をみてホッとする。この状況に、的確に本館に戻った。た。付き添いの先生が、瀬波小学校に避難を願ひ出たが、校長もどう処置するわけにもいかず、教

が、ますます大したことはない。が、全員の安全を確保するに危険でしたが、全員無事だ」とわが子の無事を確認したような気が、全く驚きに堪えな。あの瞬間の大揺れから大小余震の中に私が見えなかったかを振り返ってみる。

山北村大川谷中学校の二年生、二、四等が、日帰りの予定で瀬波の海岸にいて、この地震に遭遇、列車

が、ますます大したことはない。が、全員の安全を確保するに危険でしたが、全員無事だ」とわが子の無事を確認したような気が、全く驚きに堪えな。あの瞬間の大揺れから大小余震の中に私が見えなかったかを振り返ってみる。

は、公民館より危険度が高いようにも考えていたが、やはり夜具が心配になる。市役所はとりあえず50枚の毛布をまわしてくれて、ありがたいたことに賞ふどん屋も事情を汲んでくれて、数は少なかつたが、約40枚のふとんを運んでくれたし、職員の家からも毛布を借りてきます。時にグラッとなつてくるたびに奇声を発して船地区の被災者の激励にむかう。とび出す始末、夜中の十二時を過ぎても寝つかれないう。それ以上、避難民があちからこらに集団をつくつてうごめいている。鉄筋コンクリートの永久橋が津波によってぶちつげられた十数隻の漁船によって、らんかんが無残にも破かいされている。幸いに橋上の通行はできた。被害がひどか



日本一の広さを誇った北蒲水原町公民館は大きいだけに、被害も大きかった。カワラがくずれたり、柱が折れたりして使用できないところもでた]



県内の社会教育関係者に親しまれていた県立青年の家は地面隆起、断層などで建物はいたるところ亀裂と傾斜を生じ、使用不能に陥った。文部省岡部係官(左から4人目)にこもごも報告する関係者



鉄筋コンクリート造りの県立新潟図書館は傾斜し、浸水した。多くの貴重図書が水につかってしまった



県公連おなじみの新潟市柳水閣もこのとおり。当日もここで本紙の編集委員会が開かれていた

つた近船地区の玄関口で、その痛
々しさをみせつけられた。岩船支
所に立ち寄る。支所の前に消防団
長を始め幹部の方々が徹夜の警戒
に入っている。そういえば途中の
路上に各区の消防団が寝れ切った
姿で夜警に就いていた。支所には
岩船出身の市職員が詰めている。



壁の落ちた山辺里分館の村上市
の前で、文部省係官に説明す
る小杉中央公民館長(左)

さきを説明してくれた。なるほど、不幸中の幸いは、よい天気であ
る。これが雨であったらと思う
台は動いている。柱は大きく崩
壊して、壁は脚の踏み場もない。校長
さんか案内しましょうかとい
っている間にも、グラッ余震がや
きな力で下におおいかぶさって
いる。危険なのでとにかく明る
る家。今にも崩れそうになって
いる。近々の一階建ての保育所
入ることを承諾してくれた。公民館が山北村
に感謝して

入ることを承諾してくれた。公民館が山北村
に感謝して

う。校長の一
関に難をま
っている幾組
の難民の群
れ。夜気は身
に込む。もう
津波の不安は
ないのでない
か、ひくへ師毛をすすめても
頭としてきき入れてくれない。

よう注意をうながし辞去、災害の
最も大きな見られた岩船地区の八
口市にむかう。無残に倒れた家屋
が横たわっている。地割れが夜目にも
ハッキリみえる。津波におびえた
人たちが砂丘地の上にいる。こと
だ先が全くわからないので、難民
の顔や知人宅でも相当な被害が
あるが、抽筆に感嘆の聲にキ
ンがした。そしてあつて気がし
て

はるばると地震のお見舞をくたが中庭にあった石の灯籠が転ん
だ。ださって感謝している。ひどい災
害に逢った人たちは誠におきの
どこのことか。八公民館関係の被害
の方は、四千三百余万円と書いて
いるが、額の多少はともかく精神
的ショックは莫大だと思ふ。小生
の親戚や知人宅でも相当な被害
所があるが、抽筆に感嘆の聲にキ
ンがした。そしてあつて気がし
て

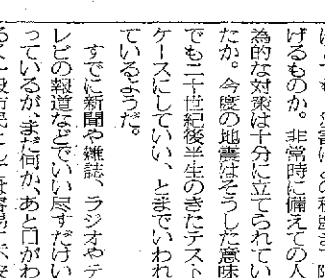
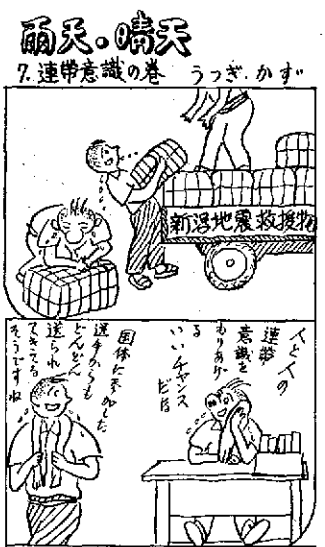
十七日夜が白むころ続いて相当
大きな余震に驚かされる。もう一
睡もとらないうちに大川谷中学校
の生徒や一般市民が公民館の前に
次から次から集まってくる。一二
名の生徒が、最終的には九九
名を輸送した。夕刻近くまで、校
ヶ丘高校から「うちの生徒だけが
ま着かないそうだが」云々とな
た「一問い合わせ。それから一時
間位たって全員無事到着の報にホ
ッとする。この動きの中で、しみ

が、どこから伝わったのか、高校
の生徒や一般市民が公民館の前に
次から次から集まってくる。一二
名の生徒が、最終的には九九
名を輸送した。夕刻近くまで、校
ヶ丘高校から「うちの生徒だけが
ま着かないそうだが」云々とな
た「一問い合わせ。それから一時
間位たって全員無事到着の報にホ
ッとする。この動きの中で、しみ

M君への返事

地震見舞に答えて

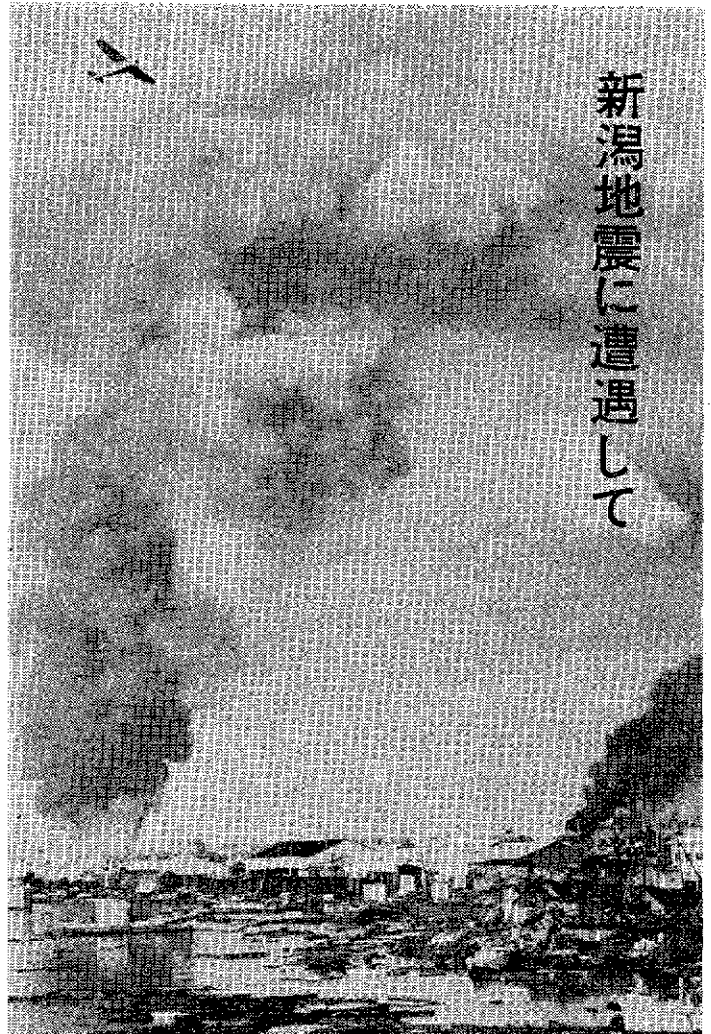
じみ感じをいば、各方面への需
時のつながりをつけておくこと
大切なことを痛感させられた。
それから後には、被災者援助、救
援資金本部を設けたり、広報宣伝
民心安定のための言舞(心)を受
け持つことになった。安定の度
高まるにつれて、人間の欲心がむ
き出しにあらわれてくる。
われわれの社会教育は、こころ
な気持から抜かれぬのであるま
いか。杞民の憂、とほまいたた
ものだが、それはさだなくとも
まは一日も早く備が安定した気
持になってくれなければ困る。六
月最終の日曜日だったが、被害
激しかった江東Y地区の調査に協
力を頼まれ、日軒並み廻ってみ
たい。勉強になった。百軒余の
調査であったが罹災者からは異口
同音に苦痛が訴えられた。泥士と
浸水、家屋の倒壊、傾斜、足を踏
み入れることもできぬ惨状だ
様子を見たとき、まはさだなくとも
念が空の下と地の上と響きあ
ているといった感じだった。卒直
にいてわれわれの気にかかると
とは罹災者の他方本願的な姿勢
いわばパスに乗り遅れるないう
利己的な口の色が彼みとれたこ
だ。それはそれなりにわかるが、
それが真実とは思えられぬ。とい
って権利の上で眠っていても重要
はないが、ただ日頃社会改造とか
人間改造とか、口にする例のウン
チクとやらがこうした非常時の際
う時々は役にも立たないものか
と悲観させられる面があるかと思
うと、募金を通して拜みたいよ
うな人の心の美しさをみせつけら
れたい。とめもないが、ただペン
を走らせた。雑用が次々にてくる
お許しを。
(本会理事)



災害と社会教育について
みなさんの建設的な御意見を
集めてみたいと思ひます。御
送稿をお待ちいたします。
(本)

お見舞を深く御礼申し上げます (県公連)

新潟地震に遭遇して



詩『真昼の恐怖』

(カットは津波に襲われた代島と昭和石油の爆発)

矢 端 甫 夫

ぐわお、ぐわお ぐわおぐわお
 突然黒い地表を烈しくゆすぶって巨大な怪物
 は、うなり声を立ててやってきた
 のたうち、盛りあがり、ぶちつけて、
 荒々しい骨格をむき出しに、あばれまわる
 午後一時二分のセコンドの針が亀裂した
 残忍な怪物は、神を捨て、光をあざけり、
 倫理を踏みじった
 ざらざら日を剝く地面へ、ずんずん埋没してゆ

く、街、街
 油と業火に灼けただれた黄色い泥の上を、
 人々は硬直する頬をひきつらせ、黒蟻のよう
 はい廻る、すでに色彩は死んでいる
 歩道の限界だ
 押しつめられた私の意思の底にすべては空し
 く、憤りは無力だった
 そんな弱気な網目をくぐって死はどこから匂っ
 てくるのだろうか

ことは三昧

第一九回国民体育大会が成功
 裡に終りほつと一息ついたと
 るこの度の新潟震災、うき世
 の明暗をはっきりと示し
 た新劇である。災害に遭
 遇された痛様に心からお
 見舞申し上げます。
 さて前回ことはの諸君にふれ
 ましたので、ひきつづき、西陸
 下の行幸路にちなみ「みやこ」
 ということはの語源にふれて
 成立しています。従って天皇が
 昇舞申し上げます。

みやこ

「みやこ」は一般に漢語では
 「都」と書きますが、漢語と日
 本語の「みやこ」とはいささか
 意味を異にするものです。「み
 やこ」が今日まで伝えられて
 います。思うに、これは天皇が
 常任したわけではなく、仮の座を
 結んだところも「みやこ」と名
 づけられたためではないでしょ
 うか。
 なお同系語に「みや」(宮)
 があることを附記しておきま
 す。(Q)

最後の口かと思う

矢 端 甫 夫

柳水園の一室で昼食をとりなが
 ら、次の月報の編纂方針にかかっ
 た一時打った直後、突然襲った激
 しい上下震、そのうち、ペリペリ
 と不気味な音、割れるガラスとこ
 りゃ、えらい地震」とあわてて
 戸外へ飛び出した。道路はアッと
 通し全くなしというところ私と此
 道、地下水がいつよになって吹
 き出し倒壊寸前の家屋に流れこむ
 の、どよめきでこたえ返していた
 本田さん、太田さんを見失った
 私、ともかく次の八千代橋に飛
 んだ。陥没した橋詰をはい上がった
 時「危いッ危いッ」後に怒声か
 走った。そこに愛憎も悲しみも

新編最後の口かと思われた。

(本紙編集委員、直江津市民館)

あとがき

とつぷりうしもない災害が発
 生して、本紙の編纂方針もめ
 ちゃめに破壊されてしまいま
 した。予定していた原稿は到着
 せず、急ぎよ、組み直しで地震
 特集号とし、写真でうめること
 にいたしました。本紙の印刷所
 も津波や水道の被害で日替の能
 力が発揮できない状態です、よう
 やく、またまた本号です。

× 国体反省特集号変じての地震

特集号、国体記録のため購入し
 た巻録レックスで、マスコームで
 いたのですが、地震で活躍する
 ことになるとは思ってもみま
 せんでした。

× しかし、とにかく事務局は無事

でしたので、がんばっていま
 す。(本)